

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4571900416		
法人名	医療法人 俊生会		
事業所名	グループホーム こすもす		
所在地	宮崎県東諸県郡国富町大字本庄12146番地3		
自己評価作成日	平成 22年 10月 1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kouhyou.kokuhoren-miyazaki.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4571900416&amp;SCD=320">http://kouhyou.kokuhoren-miyazaki.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4571900416&amp;SCD=320</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	宮崎県医師会サービス評価事務局		
所在地	宮崎県宮崎市和知川原1丁目101		
訪問調査日	平成 22年 10月 29日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>超高齢の方が多く介護度にも差があり、全員そろっての外出や、レクリエーションなど難しい面がありながらも、寄り添い、介護される側と、介護する側が心の絆でしっかりと結ばれている。そんな場所に行きたいと職員一同取り組んでいます。外に出ることが好きな方には、出来る限り、外の空気に触れてもらい、のんびりゆったりと過ごしたい方には快適に過ごすことが出来るよう、環境整備をしています。</p>
--

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は利用者との絆はもちろん、利用者との家族・職員との絆を大切にしており信頼関係を築いている。利用者は安心して自分のペースでゆったりと過ごしておられる。家族の来訪も多く運営推進会議メンバーとして利用者の殆どの家族の参加があり、事業所の行事の際には気軽に手助けしてもらえなど理解と協力が得られている。職員同士のチームワークも良く、職員の表情が明るい。</p>
--

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の申し送り時に、職員は理念を唱和し、理念の共有と実践に向けて取り組むよう努めている。	地域密着型サービスの意義を職員全員で確認し事業所独自の理念を作り上げ、利用者との関わりの中で理念がケアに活かされているかをミーティング時に話し合っている。理念の言語が漠然として利用者や家族には理解されにくい部分がある。	理念を職員がしっかりと介護現場で現実化しやすい、また、利用者や家族にもわかりやすい具体的な言葉で表現されるなどさらなる取り組みを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入しており、清掃活動に参加している。散歩や、回覧板まわりなど、地域の方々と触れ合う機会を作るようにしている。	散歩の途中で近所の方の庭先で花を話題に立ち話をしたり、地元の活動に参加する等地域住民との交流に積極的に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職員が出掛けるときには、利用者と一緒に役場や銀行、スーパーなどに出掛け、地域の人々に知ってもらう。会話を。そんな自然な形で関わり支援の方法を学んでほしいと考え、実践している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年に6回運営推進会議を行い、ホームでの報告、今後の取り組みについての理解、相談などを行っている。その意見が反映され、行事など家族も一緒に参加する形が出来たと、サービスの向上につながっている。	会議では事業所からの報告と共に参加メンバーから意見や要望を受け、双方向的な会議となるよう配慮している。会議には利用者のほとんどの家族の参加があり、事業所の行事の手伝いを積極的に引き受けてもらうなど、理解と協力が得られている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	疑問点、相談事などこまめに市町村担当者とは、連絡を取ったり、利用者を連れて窓口で、語ることもあり、信頼関係の構築に努めている。	町担当職員とは日頃から利用者や職員との交流があり、事業所の運営に協力的に関わってもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止宣言をして、施設内に掲示。身体拘束についての研修を行い、全職員で身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	全ての職員が身体拘束の内容とその弊害を認識している。利用者の行動に目配り・気配りしながら、近隣の協力を得て、安全を確保しつつ、自由な暮らしを支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法について研修の機会を設け、虐待についての知識を深め、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度への理解を深めるため、研修の機会を設け、それらを活用できるよう備えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や改定等の際には、文書を発行し、十分な説明を行っている。また、日頃から意見を言いやすい雰囲気、関係の構築に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月に一度のモニタリング時には、要望をお聞きするようにしている。また、だれでも気軽に利用出来る、「苦情・相談ポスト」を設置している。利用者、ご家族に、満足度調査を行い、運営に反映させている。	家族の来訪時には気軽に意見や要望を言ってもらえる雰囲気作りを心掛けている。また、年1回、「満足度調査」として利用者及び家族にアンケートを行い意見や要望を聴く機会を設けている。出された意見や要望は運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度のミーティング時にはBS法を用いて、職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	管理者を始め職員同士のチームワークが非常に良く、気軽に意見を出し合える雰囲気がある。職員の意見や提案は運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職員個々と話す機会を設けており、努力や実績、勤務状況を把握し、職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、法人内外の研修に積極的に参加できるよう、機会の確保に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町内外で開催している、ケア会議、研修など、ネットワーク作りや、勉強会などを通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の状態に合わせ、要望を伺いどんなことがしたいのか、どんなことに不安を感じているのか、耳を傾け、安心した生活の確保に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族に困っていることやご要望など、サービス導入時にはもちろん、毎月伺うようにしており、信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを導入する段階で、今まで関わっていた、ケアマネジャーや御家族としっかりと話をし、必要な支援を見極めるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	可能な限り、一緒に掃除や、食事の準備をする。利用者に味見をしてもらい、意見を反映させるようにして、一方通行の介護にならないよう考慮している。昼食も一緒に食べるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事の時には、一緒に料理や、準備を手伝ってもらう。料理の差し入れもある。日頃よく使う古新聞なども持ってきてもらっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	可能なかぎり、散歩など取り入れるよう努めている。馴染みのご近所さんなどがご本人に会いに来られた際には、再度本人に会いに来てもらえるよう、声を掛けている。	利用者はほとんどが事業所の地域の方であり、散歩や買い物時には馴染みの人と挨拶や言葉を交わしている。職員は利用者の馴染みの人や場との関係が途切れないよう機会作りに努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	きちんとアセスメントし、また、日々の利用者同士の関係を観察して、テーブルの位置や、職員が間に入って仲介するなど見極め、良い関係が築けるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了したご家族からの相談にも応じ、これまでの関係性を大事にしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人がどのような生活を希望しているかをお聞きし、また、意向の聞き取れない利用者には、職員が話し合い気持ちを汲み取って支援している。	職員は利用者との日々の関わりの中で声かけをして言葉や表情等から利用者の思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントを行い、これまでの暮らし方の把握に努めている。また、ご家族や、馴染みの方が来られた際にも、生活歴など聞き取るようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録、定期的に行う心身の評価などで現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族により良く暮らすための課題とケアのあり方について意見をお聞きし、必要な関係者と話し合い、現状に即した介護計画を作成している。	介護計画は職員全員が意見やアイデアを出し合い、3か月毎の見直しと利用者の状態に応じて随時に見直しを行い、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日個別にケア記録をつけ、実践・結果、気づきや工夫など職員間で情報を共有して、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	月に1回のモニタリングや、その他面会時にご家族からのご希望をお聞きするようしており、柔軟な対応、サービス向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を活用し、地域の住人として生き生きと暮らしていくことが出来るよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び、家族の希望を大切にし、かかりつけ医と事業所の関係を作りながら適切な医療を受けられるよに支援している。	利用者及び家族の希望するかかりつけ医となっている。受診や通院は本人や家族の希望に応じて対応している。受診結果に関する情報も共有出来ている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	関わりの中でとらえた情報や、気づきを訪問看護師に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、速やかに情報提供を行い、スムーズに安心して治療が出来るよう支援している。また、普段から、病院関係者との関係づくりに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化した場合や終末期のあり方、看取りについて、本人・ご家族と話し合いをしており、主治医も含めたチームケアでの取り組みを行うこととなっている。	意思確認書を作成している。本人や家族の意向を踏まえ、医師、職員が連携を図り、本人、家族が納得できるよう、随時話し合いを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に訓練、研修を行い実践力を身につけるよう取り組んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に訓練を行い、全職員が同じように利用者を安全に避難させることが出来るよう取り組んでいる。	年4回、定期的に防災訓練を行っている。職員は利用者を交えての避難訓練を行い、地域の協力体制も出来ている。また、運営推進会議では消防署より講師を招き、火災の対応について研修を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	月1回のミーティング時など言葉遣いや、人格を尊重した対応に十分気をつけるように、話し合う機会を設けている。また、朝の申し送り時には理念を唱和することで、職員の考える機会を確保している。	職員は、利用者を年長者として敬意を払い、一人ひとりの誇りを尊重し、プライバシーの確保について認識している。利用者の誇りを損ねるような言動は見られなかった。書類などの管理もしっかり行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は、利用者が希望や思いを表しやすいように、日頃から、スキンシップ、寄り添うケアを実践し、信頼関係の構築に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	特に決まりごとを作るのではなく、利用者の体調、天候などを考慮、本人の希望を大切に、その日の過ごし方を考え支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行事の時や、外出時には、お化粧品でよそ行きの格好を職員と一緒に選ぶようにしている。また、マニキュアを塗ったり、髪を明るく染めたりして、おしゃれを楽しんでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来るだけ、食に携わってもらっている。準備、片付けも一緒に行っている。	職員は、食事が楽しみなものになるよう、利用者の嗜好を取り入れた献立の工夫や料理の味見、食材の買い物など利用者の力量に応じた場面作りを工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	病院の栄養士による献立をもとに、バランスの良い食事を提供し、水分、食事量を記録している。食事の様子から、形状なども工夫し、食べやすくしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の歯磨きやうがいの支援。口腔ケア用のスポンジを使ったケアなど、本人の状態に応じた口腔ケアを実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	夜間の歩行が心配な方には、ポータブルトイレの使用。失敗の頻繁な方には誘導を行い、排泄の自立に向けた支援を行っている。	利用者一人ひとりの排泄パターンを全職員が把握している。昼間はトイレでの排泄を大切にしながらパット類も本人に合わせて利用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	十分な水分の確保、飲食物などに工夫を凝らし提供している。また、個々に応じた、運動の働きかけを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日、時間帯も決めておらず、希望やタイミングにあわせて入浴してもらっている。	これまでの事業所が決めた入浴曜日を止め、利用者が入浴したい日は何時でも入浴できるように支援している。また、隣家から頂いたゆずを利用して季節感を味わってもらうなど楽しく入浴できるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の体力や、睡眠状況に合わせ、休息してもらい、健康で、穏やかに過ごせるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の処方箋はきちんと、ファイルしてあり、職員がいつでも確認できる場所に置いてある。誤薬のないよう2人で確認してから服薬してもらっている。薬の副作用等理解し、変化、気になることがあれば、主治医に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	アセスメントから、生活歴など拾い上げ、出来るだけ張り合いや喜び、笑いのある毎日になろうと努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	可能な限り希望に沿って外出できるよう努めている。	利用者の気分や体調に合わせて、近隣の散歩や買い物など出来るだけ戸外に出かけられるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分でお金を持っていたい利用者には、家族と相談し、小額を持ってもらっている。その他、金庫で預かっている方でも、買い物に行く際には、本人のお財布を持って、買い物できるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族が長く来られない時、要望時には電話をかけて、話してもらうようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や、トイレ、食堂には、散歩時に摘んできた草花を飾り、窓の外には、植木や、花が見える。季節に応じ、よしずや、風鈴などからも季節を感じ、気持ちよく過ごす事が出来るよう工夫している。夜間は、白熱灯の灯りで落ち着いたようにしている。	居間の一角の畳の間には生活感のある炬燵や調度品が置かれ、利用者がゆったりとくつろげる雰囲気がある。ソファやテーブルの配置にも気配りがあり、利用者は台所に居る職員と会話を楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	全室個室であり、独りで過ごす事も、日当たりの良いテラスで過ごしたり、ホールソファやこたつで気の合う利用者同士過ごすことも出来るよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた寝具や、家具など、自由に持ち込んでもらい、居心地良く、落ち着いた空間で過ごす事が出来るよう工夫している。	居室はきれいに掃除されている。利用者は使い慣れた椅子や縫いぐるみ、家族の写真などを持ち込み、本人が落ち着いて過ごせるよう工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所や洗面所がわかるように大きく張り紙を出している。お茶がいつでも自分で飲めるよう常に急須に入れている。また、自分で注ぐ事の出来ない方には、ペット脇に楽のみを用意し、いつでも飲む事が出来る様、常備している。		